

## 万人のための教育

－ Education For All －

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「万人のための教育(Education For All)」のセミナーに参加したそうですね。

A：(林明夫：以下省略)教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) と独立行政法人国際協力機構 (JICA) 主催の、EFA グローバルモニタリングレポート 2007 年度版出版セミナーが、2月10日に JICA 国際協力総合研究所で開かれました。

ユネスコ (UNESCO) 活動を推進する市民の一人として、ユネスコが中心となって推し進めている「万人のための教育」について勉強を深めたいと考え、参加させて頂きました。

外務省からのニュースのメール配信で、この会議を知り、インターネットで申し込みました。

Q：ユネスコはじめ国際社会が推し進める「万人のための教育」の運動は、どのような目標を追求しているのですか。

A：6つあります。

- (1) 乳幼児、特に最も不利な立場におかれた子供たちへの包括的なケア及び教育を拡大する。
- (2) 2015 年までに、すべての子どもたち、特に女子や困難な状況におかれている少数民族の子どもたちに、質の高い無料の義務教育へのアクセスを提供し、卒業させる。
- (3) 適切な学習や職業訓練プログラムを提供する平等な機会を通じて、すべての青年と成人の学習ニーズに応えることを保証する。
- (4) 2015 年までに、特に女性の識字率を 50 % 向上する。そして、すべての成人への初中等教育への平等な機会を提供する。
- (5) 2005 年までに、初中等教育でのジェンダー格差を排除し、女子に質の高い基礎教育への完全で平等なアクセスを提供し、卒業させることに焦点を当て、2015 年までに教育でのジェンダーの平等を達成する。
- (6) 特に、識字能力、数学的思考力、必要なライフスキルの面で測定可能な学習成果が達成されるように、教育の質に関するあらゆる面を向上し、その良い状態を維持する。

Q：なぜ「万人のための教育」なのですか。

A：教育は、生活水準の向上及び民主的な社会の基礎であるのに、余りにも多くの人々が教育を受けていないからです。世界で1億人以上の子どもたちが学校に行っておらず、そのうちの60%が女子であるそうです。子どもの4人に1人は5年間の基礎教育を修了できず、10億人近くの成人が非識字者であるといわれています。

Q：「万人のための教育」で、林さんの大きな関心は何ですか。

A：たくさんあります。①トイレがないために、女子が学校に行けないということ、②本や先生の数 が圧倒的に不足しているということ、③児童労働のために小学1年生にドロップアウトが最も多く、同じ理由で小学校を修了できない子も多いということ。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様に考えて頂きたいことはありますか。

A：目の前にいる児童、生徒の教育も大切とは思いますが、時には世界の教育の実情、とりわけ開発途上国の現状についてもお考え頂き、日々の教育に生かして頂くと同時に、同じ教育に携わる者として、どうしたらよいかもお考え頂きたいということです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：日本のODA(政府開発援助)は、開発途上国の基礎教育の充実、つまり「万人のための教育」にもっと多くの予算配分をすべきと考えます。寺子屋の伝統を踏まえた基礎教育の充実のお陰で、日本は今日の日本になりました。世界の基礎教育の充実のために日本国民の税金を使わせて頂くことが、「日本らしさ」、「美しい国」の実現に繋がると考えます。

書き損じハガキを集めて、世界の識字率向上に役立てるユネスコの「世界寺子屋運動」は、我々にもできる「万人のための教育」運動かもしれません。

成熟社会の日本では、知識基盤社会と人口減少社会に対応するための本格的な「万人のための高等教育(Higher Education For All)」と「万人のための生涯教育(Life Long Education For All)」が課題と考えます。

皆様は、どうお考えですか。

— 2007年2月23日記 —